

高齢者肝硬変診療ガイドライン

高齢者肝硬変診療ガイドラインの発刊によせて

日本高齢消化器病学会

理事長

森山 光彦

日本高齢消化器病学会は、高齢者の消化器病診療に役立つガイドラインを作成する必要性を考慮して、平成29年に樋口和秀理事を担当理事としてガイドライン委員会を発足いたしました。

当学会では、既に高齢者GERDガイドライン、高齢者胃潰瘍止血ガイドライン、高齢者胆石症診療ガイドラインを制定して参りました。今般、高齢者肝硬変ガイドラインの制定にあたり、作成を名越澄子副理事長と各分野の俊英6名の作成委員の先生方に、評価を西口修平理事と6名の評価委員の先生方に依頼いたしました。

既に各病院の入院患者は、その大多数を70歳以上の高齢者が占めている時代となっています。日本では今後さらに高齢者の占める割合が上昇することは確実であります。このような背景を考慮しつつ、日本消化器病学会・日本肝臓学会の作成された肝硬変ガイドラインとは一線を画した高齢者に特化した肝硬変ガイドラインの作成をお願いしました。

高齢者は非高齢者に比較して生理機能・栄養代謝機能・消化吸収機能・免疫機能など生体の調整作用が、非高齢者に比較して劣っていることは間違いありません。

本ガイドラインは、このような生体機能を十二分に考慮して作成いたしました。

実際には各作成委員により、高齢者肝硬変の特徴、診断、栄養代謝の診断と治療、糖尿病が及ぼす影響、NASHの特徴、抗ウイルス薬剤を用いたB型およびC型肝炎の診断と治療、AIHとステロイド治療、門亢症の診断と治療、腹水の治療、合併した腎障害の診断と高齢者CKD合併肝硬変に対する薬剤選択、不顕性肝性脳症と認知症の鑑別が可能か、肝性脳症の治療、門脈血栓症の治療、高齢者サルコペニアの治療、肝移植の適応か、についてまとめていただきました。

さらに、西口修平先生を委員長とした評価委員会の先生方により、作成されたガイドラインを評価していただきました。これにより、高齢者の肝

硬変症の診断と治療についてほぼ全分野を網羅するガイドラインを作成することができました。

御多忙にも拘わらず、本ガイドライン作成に携われた名越澄子先生を委員長とした作成委員会の皆様方、西口修平先生を委員長とした評価委員会の先生方に深く御礼いたしますとともに、本来肝硬変に対する最適な治療は、各個人の病期と病態に合わせた多面的な治療が必要であることを理解していただきたいと思えます。

本ガイドラインが皆様方の診断と治療に貢献すること、ひいては高齢者肝疾患患者さんの健康と福祉に貢献できれば幸いです。

高齢者肝硬変診療ガイドラインの作成過程

日本高齢消化器病学会
ガイドライン作成担当理事・作成委員長
名越 澄子

日本高齢消化器病学会で、高齢者を対象とした肝硬変診療のガイドラインを作成することとなり、「肝硬変診療ガイドライン2020」(編集 日本消化器病学会・日本肝臓学会)の作成委員の施設を中心に若手の先生をご推薦いただき、作成委員会を組織し、2021年2月に「高齢者肝硬変診療ガイドライン」の作成に着手した。まず、肝硬変とその合併症の診断・治療において、特に高齢者で問題となりうる課題を抽出し、19のclinical question (CQ)を決定した。文献検索の期間は設けずにハンドサーチを行ったが、対象を高齢者に限った報告は極めて少なかった。

各CQに対する解説の作成に当たっては、論文により高齢者の定義が異なり、日本高齢消化器病学会における「高齢者」の定義も確定していないことから、論文に記載された高齢者の年齢を逐一記載することにした。

引用した各論文の研究デザインは記載したが、高齢者を対象とした論文数が少なく、高齢者の定義も統一されていないため、論文のエビデンスを総合評価することは不可能であると判断し、本ガイドラインではエビデンスの質および推奨の強さは決めないことにした。

作成委員会で作成した原案を評価委員会に諮り、答申を検討して修正を加え、評価委員会の承認を得て最終案を完成させた。さらに、本学会会員にパブリックコメントを求めた。ご多忙の中、貴重なご指摘をいただいた西口評価委員長をはじめとする評価委員の先生方に深謝申し上げるとともに、ハンドサーチで論文を検索しWEBによる委員会で幾度も修正作業を行っていただいた作成委員会の先生方に心から感謝申し上げます。

本ガイドラインが超高齢社会における肝硬変診療に役立てば幸いである。このガイドラインが高齢者肝硬変診療の課題を提示することで、日本から多くの研究成果が発信され、質の高いエビデンスに基づいたガイドラインに改訂されることを祈念する。

目次

高齢者肝硬変診療ガイドラインの発刊によせて	2
森山 光彦 (日本高齢消化器病学会 理事長)	
高齢者肝硬変診療ガイドラインの作成過程	4
名越 澄子 (日本高齢消化器病学会 ガイドライン作成担当理事・作成委員長)	
高齢者肝硬変診療ガイドライン	7
CQ-1. 高齢者肝硬変の特徴は何か?	11
CQ-2. 高齢者肝硬変はどのように診断するか?	13
CQ-3. 高齢肝硬変患者の低栄養状態はどのように診断するか?	15
CQ-4. 高齢肝硬変患者の低栄養状態はどのように治療するか?	17
CQ-5. 高齢者肝硬変の病態に糖尿病は影響するか?	19
CQ-6. 高齢者の非アルコール性脂肪性肝疾患の特徴は?	21
CQ-7. 高齢者B型肝炎に対して核酸アナログは有用か?	24
CQ-8. 高齢者C型肝炎に対してDAAは有用か?	26
CQ-9. 自己免疫性肝炎による高齢者肝硬変に対してステロイドは有用か?	29
CQ-10. 高齢者門脈圧亢進症はどのように診断するか?	31
CQ-11. 高齢者食道・胃静脈瘤はどのように治療するか?	33
CQ-12. 高齢者の肝硬変に伴う腹水はどのように治療するか?	36
CQ-13. 高齢者肝硬変に合併した腎障害はどのように診断するか?	38
CQ-14. 高齢者CKD合併肝硬変に対する薬剤使用で注意すべきことは何か?	40
CQ-15. 高齢者肝硬変に合併した不顕性肝性脳症と認知症の鑑別は可能か?	42
CQ-16. 高齢者の肝性脳症はどのように治療するか?	44
CQ-17. 高齢者肝硬変に生じた門脈血栓症はどのように治療するか?	46
CQ-18. 高齢者肝硬変のサルコペニアはどのように治療するか?	49
CQ-19. 高齢者肝硬変に対する肝移植は有用か?	52